



2P) 大きなガラス屋根の掛かるデッキを中心とした1階のワンルーム空間。開口部を大きく開き、デッキスペースも室内と同じ生活の一部として使用している。ガラス屋根を通して光が内部まで差し込み、暖かさとも明るさを室内に与えている。

左) ガルバリウム鋼板と漆喰を外壁に使い、ベランダや板塀に木材を使用した外観。木材は通風と目隠しの目的で隙間が開けられているが、耐久性の面からも意味のある納まりとなっている。

右上) デッキスペース上部に掛けたガラス屋根。屋根下地の垂木を利用し、軒先までガラス面となるように納めている。

右下) 玄関前に設けた自転車置き場。ステンレスの柱に垂木を現した屋根を掛け、外観のイメージを壊さないように配慮して計画した。屋根には太陽熱温水器も設置されている。

Yさんのお宅は静岡市の中でも人気の高い住宅地に建築されました。周辺は新しい住宅が建ち並び清々しい雰囲気を感じる街並みですが、白く綺麗な外壁やアルミ部材のエクステリアなどを見ると、どこか物足りなさも感じてしまいます。Yさんのお宅は内部だけでなく、外部にも木材をふんだんに現したお宅になり、優しい陰影のある外観となりました。木材は水に弱いイメージがあり、雨などで濡れると腐ってしまうのではないかと思う方も多いと思いますが、木材は種類や使い方を間違わなければ思った以上に長持ちしてくれる素材です。ですが、闇雲に使うわけではなく、ベランダなどは軒を深くしてなるべく雨が当たらないようにし、板塀や手摺は隙間を開けて早く乾くように取り付けています。木材に塗料を塗る事がありますが、これは木材の保護より色を綺麗に保つために行う事が多く、塗装しているから腐らないとは限りません。塗装はお施主さんにもお手伝いいただく事が多く、施主が参加できる仕事として出来る限りお願いしています。今回もYさんご家族に手伝っていただき色々な部分の塗装工事をさせていただきました。足場に乗っての作業は危険もあるので無理は禁物ですが、板塀などは今後のメンテナンスのためにも経験をしていただく事をお勧めしています。

### 木材を現した陰影のある外観

木の家は四季を通して様々に変化し、季節を受け入れて暮らす家だと感じています。夏の暑さも冬の寒さも時には厳しさがありませんが、涼しい風や暖かな日差しを感じると、暑さや寒さも悪くないな...と思う事もあります。ですが春は特別の季節で、朝の目差しから昼の日向ぼっこ、少し肌寒い夜も家の中では暖かさを感じ、木の家で過ごす春はまさに至福のひとつを感じます。今回写真撮影のために伺った『結の家』のYさんのお宅も中庭に差し込む日差しが暖かく、明るい日差しが家の中を華やかに演出してくれていました。Yさんのお宅は、限られた敷地の中でも遊び心を取り入れ、ガラス屋根のあるデッキスペースを中心とした木の家をつくりました。1階は水廻りと玄関以外はほぼワンルームの間取りとなっていますが、同じ空間の中に様々なスペースをつくり、家族それぞれがお気に入りの場所を見つけて暮らす楽しんでもらっています。また、2階はプライベートルームに部屋を加えて室内に物干しスペースを設置し、1階とは違ったプライバシーと機能を重視した間取りとなっています。『結の家』の明るく暖かな雰囲気と共に、コンパクトで機能的な間取りをご紹介します。

# 四季を楽しむ お気に入りの暮らし

完成現場報告

静岡市／『結の家』

文・写真／コロラボ 山崎健治





### ◎ コンパクトな配置で心地よい関係

上) 壁側はTV台、パソコンデスクを兼ねた低い収納になっている。開き戸や引出しを合わせた収納は、細々とした生活道具や書類、薬箱や裁縫箱などをしまうのに便利。パソコンデスク上部の飾り棚にはお気に入りの品を飾っている。

下右) キッチン横に配置したアイアンフレームの階段。鉄は細く小さな部材で丈夫にすることが出来るので、見た目にも軽やかな階段が出来上がる。

下左) シンクとコンロを分けた二の字型キッチン。シンクとコンロが離れているため多少動きが多いが、どちらにも広いスペースが生まれ、作業に便利。アイランド型はどちらからも出入りでき、家族みんなで楽しく料理が出来る。



### ◎ プライバシーのある開放空間

上) デッキは和室前のホール・ダイニング・広間に囲まれ、どの部屋からも利用できる。開放的な空間だが、デッキの外には板塀が取り付けられ、隣家や全面道路からの視線を遮りプライバシーの高いスペースになっている。

下右) 和室の壁には土を塗り、押入襖を鉄紺で合わせた。襖は下部を低く、上部を高くし、天井の高さまで利用できる。現在は寝室として利用しているが、漆喰の部屋とは雰囲気の違い、落ち着いた空間となった。

下左) デッキとの境の建具には障子も組み込まれている。障子は閉めても適度な明るさを残してくれ、断熱性がよく部屋の暖かさを逃がさない優れた建具として重宝している。



## 木材をふんだんに使い 心地よい空間デザインに

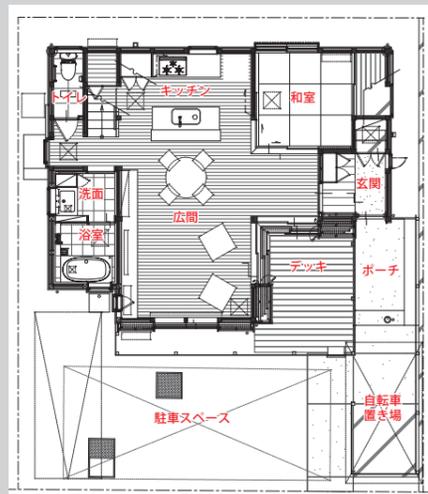
外観を見てもひと目で木の家を感じさせるお宅ですが、内部にもふんだんに木材を使用してくられています。Yさんのお父さんが木材関係のお仕事をしているため、構造材の一部や下地材、床板や天井板なども支給していただき、柱や床板などはとても良い木を選んでいただきました。現場の担当者や大工などにも気軽に声を掛けていただき、心地よいコミュニケーションの中、現場を進める事が出来ました。Yさんのお宅はコシラボ定番の板倉構法でつくられています。すべての壁には杉の厚板がぎっしりと積み重ねられ、構造的にも防火的にも安心出来る性能になっています。板倉の家は壁に杉板が現れてくる事から全体として重い印象の室内になりますが、広間や和室には漆喰や土壁を交え、優しく明るい印象の雰囲気仕上げています。また、ウッドデッキへの大きな開口部を設ける事で閉鎖感を無くし、木のブラインドや格子窓を使用して光の調整なども試みました。木材は一枚一枚に変化があり見ても飽きない素材です。見た目だけでなく調湿性や保温性も高い素材なので、他の素材とバランス良く配置し、心地よいデザインとなるように心がけています。

## ワンルームの中につくられた 心地よい居場所

冒頭に『結の家』の1階はほぼワンルームの間取りとご紹介しましたが、一つの空間の中に様々なスペースをつくり、それぞれが程よく関係し合うように計画しました。キッチンは全体が見渡せ、家事をしても他の様子がわかる場所に設置し、和室・ダイニング・広間はウッドデッキを囲むように配置してどこからも利用出来るようにしました。デッキスペースは雨でも利用出来るように大きな屋根を掛け、一部をガラス屋根とすることで今の季節でも室内に太陽の光が届くようにしました。デッキには季節の花が置かれ、息子さんの遊び場所として大きな黒板も取り付けてあります。屋外でありながら室内が続いているような不思議な空間で、この家の核となる場所になりました。その他、広間にはテレビ台とパソコン台、そして生活雑貨の収納を兼ねたカウンターを設け、機能的にもデザイン的にもこの空間のポイントとし、キッチン脇に設けたアイアンの階段もちょっとしたアクセントになっています。玄関から室内に入るとすべてが一瞬で飛び込んでくるような感覚の空間ですが、それぞれが上手く使い分けられ、丁寧に暮らしていただいている様子がとても嬉しく感じました。



2F平面図



1F平面図・敷地図

仕様内容

家族構成	家族3人
敷地面積	140.30㎡
建築面積	67.61㎡
延べ床面積	110.96㎡
構法	落し込み板壁構法
屋根	ガルバリウム鋼板タテハゼ葺き
外壁	ガルバリウム鋼板角波タテ貼、一部漆喰コテ押え
外部建具	木製オリジナル建具 ナラ、ヒバ、ペアガラス、アルミサッシ(ペアガラス)
天井仕上	杉板本実張り 厚12mm 青森ヒバFJ本実板張り 厚15mm
壁	杉落し込み板現し 厚30mm
床	漆喰塗、土塗、青森ヒバFJ本実板張り 厚15mm 桧本実板張り 厚15mm 杉本実板張り 厚30mm サーモタイル300角貼り
内部建具	オリジナル木製建具
キッチン	ステンレスヘアライン天板オリジナルキッチン
洗面化粧台	TOTO人工大理石天板オリジナル洗面化粧台
浴室	オリジナル浴室 壁・壁：サーモタイル300角貼
設計者	山崎健治
施工	有限会社こころ木造建築研究所
竣工	平成26年11月



広間／丸いダイニングテーブルもコロボで製作した家具。天板はナラの無垢板で作り、鉄足をアトリエプラトーさんに製作してもらった。木と漆喰を主体とした空間の中に、北欧照明やアイアン、伝統素材の葛布などが入り混じり、確かな安心と心地よいデザインを感じる空間となった。

**成長する木の家**

今回1年ぶりにお伺いさせていただきました、改めて落ち着く空間だと感じました。L型に囲んだデッキスペースがあることで十分な開放感を感じ、住宅が建ち並ぶ場所にもかかわらず窓を開けていても外からの視線が気になりません。そして何より、壁や天井、床板などに使われた木材が優しい雰囲気をつくりだし、落ち着く場になっていると感じました。綺麗に飾られた小物や草花も彩りを与えてくれ、この家にエネルギーを注いでくれているようです。家族と共にまだまだ変化する木の家だと思えますので、もっともつとお気に入りの家になるように育てていっていただきたいと思えます。これからの成長を楽しみにしています。



サンルーム／物干し場としてつくったサンルーム。木の壁や天井でつくられているため湿気を吸収し、とてもよく乾いてくれる。雨の日や花粉の時期には特に便利で、この場所のおかげで毎日の洗濯が楽しくなる。



子供室／2階南側に面したスペースを2室にできる12帖の子供室とした。板倉の杉板に包まれた木の部屋で、優しい光と香りを感じられる心地よい部屋となった。木の壁は丈夫で多少のいたずらでも気になら無い。



浴室・洗面室／浴室の壁や天井、床と同じ素材で洗面室をつくり、統一した雰囲気の水廻りとした。壁・天井は青森ヒバを使い、床は30cmのサーモタイルを使用。どちらもコロボ定番の素材で、心地よく綺麗に保てる仕上げとなっている。洗濯機はサンルームにあるため、この場所はスッキリとし、品のある洗面室となった。また、浴室と洗面台の境に乳白色の合わせガラスを建具と腰壁に使い、仕切られていながらもつながりを感じさせ、圧迫感の無いように配慮した。



楽しい家事と心地よい水廻り

開放的な1階に比べ、2階は子供室と寝室、奥さん希望のサンルームをつくり、プライバシーと機能性を重視したプランとなりました。サンルームを室内に作るのには少々贅沢に思えますが、この場所がある事で家事に余裕が生まれ、雨の日も花粉の季節も気にせず洗濯物が干すことができます。洗濯は家事の中でも大変で、特に小さなお子さんがいるお宅はその量も多くストレスを感じている主婦の方も少なくないと思います。サンルームの屋外にはベランダを設け、ガラス屋根でベランダを覆っているため少々の雨でも干しておく事もできます。天気や季節、洗濯物の種類や量で干す場所を変える事が出来、毎日の洗濯が楽しい時間に変わっているようです。

1階の洗面室は、洗濯機をサンルームに設置したため、浴室と統一して広く華やかに感じられるようにしました。浴室の間にはガラス壁と棚を設け化粧品やグリーンなどを飾れるようにし、タオルや着替え、細々とした生活道具などをしまえる縦型の収納も設けました。洗面室は生活感の出やすい場所ですが、ちょっとした飾り棚や収納をつくることで雰囲気も変わり、木の浴室とあいまって心地よい空間になりました。